

西条の二年

大にわたり

昭和十九年の春から二年とく西条にいた。日本が戦争に敗けた夏、広島が原爆で焼けた夏を控へて二年にいた。...

の二年を紐とけは、浪濤と温巻、痛恨の...

炎の中、暗い情景が絵巻物とす。...

初めの頃、あしたは西条の町から五キロ高れた村へ、バスで通学して下宿、十九年の後半から学校の一部が被服工場になり、ま...

下宿とい、この食糧難が所へ、食料...

ついで人を思ふべく来る者も、友人と一緒に路上で自炊して学校工場に通うことになり、十四歳...

少女が朝起きて自分で着るのを起し、洋服を炊き、お弁当をつく、七時頃、午前十時までは十一時頃、シン作をまわれば、あ...

二十一年に入ると、空襲がひどい人になり、夜も寝巻に着て、おんぼに作着る、着衣がまて、就寝する、...

